

第3期 上越市中心市街地活性化プログラム 令和6年度のフォローアップについて

中心市街地活性化プログラムでは、目標や基本方針等を、商店街、商工団体、市民団体、行政機関等の関係者が共有し、それぞれが実施主体となり、あるいは、連携して取組を進め、事後のフォローアップに取り組むこととしています。

フォローアップは、毎年度、中心市街地活性化協議会で行うこととし、各関係者が取組の成果や課題等を持ち寄り、確認しあうとともに、目標指標をはじめとする客観データの推移、中心市街地周辺の施設等の整備状況、まちの変化などの情報共有を行います。

1 目標の達成状況

(1) 高田地区における取組状況

① 地区別プログラム（高田地区）の概要

第3期プログラムでは「使いたいまち・高田」を目標とし、商店街や市民団体はもとより事業者や住民の皆さんが、「つかいたくなる」をキーワードとして、まちなかの利便性や居住性、魅力を高めるための改善や工夫に取り組むことにより、「地域内外の皆さんが、まちなかを訪れるだけでなく、その機能をつかいたくなる、さらには暮らしたいと感じる状態を目指す」とした。

② 目標指標に対する現況

第3期プログラムで設定した目標指標及びその現況は、表Ⅰのとおり。

指標1で設定した数値は上回っているものの、指標2は新型コロナウイルス感染症の影響もあって下回っている。また、指標3については、地域住民の皆さんがまちなか居住の促進を目的に、まちの魅力や活気を高めるための活動が行われている。

表Ⅰ 第3期プログラムの目標指標に対する現況：高田地区

目標指標		数 値 等	現 況
1	高田地区居住者の日常の買物割合 ※1-1	6.3%以上	7.4% ※1-2
2	主要な拠点施設※2の年間利用者数	1,129,000人以上	981,736人
3	まちなか居住の促進に向けた機運の醸成	住民の機運が高まった状態	- 令和4～5年度：モデル地区の5町内（仲町六丁目、本町六丁目、本町七丁目、大町五丁目、西城町四丁目）において、モデル事業を実施 - 令和6年度：「まちなか居住推進地区」に認定された2町内（大町五丁目、南本町三丁目）で各種支援制度の運用を開始

※1-1 高田地区居住者が本町三～七丁目、幸町で週2、3回以上買物する割合の増加

※1-2 令和6年度上越市消費動向調査による

※2 町家交流館高田小町、高田まちかど交流館、あすとぴあ高田、イレブンプラザ

③ 各種取組の現況

第3期プログラムでは、3つの基本方針を掲げるとともに、その基本方針の実施に有効と考えられる取組を「主な取組の例」として示した。

それらに現況の取組を当てはめてみると、濃淡はあるが、表Ⅱのとおり第3期プログラムに沿った取組が実施されている。

表Ⅱ 第3期プログラムの基本方針に沿った取組の状況：高田地区

基本方針	主な取組の例	現況
1 商店街や店舗の魅力と利便性の向上	イベント開催やサービス提供を通じた来街機会の創出	○
	時代の変化をとらえた若手店主による企画事業	○
	まちに来やすい、滞在しやすい環境の整備	○
	インバウンドの来街増加につながる仕掛けづくり	△
	個別店舗の利便性の向上	△
	商店街の価値を高める繁盛店づくり	○
	商店街の力を底上げする商店間の連携	○
2 エリア間の連携強化	エリア全体を回遊する機会の創出	△
	各エリアで取組を進める商店街、商工団体、市民団体等の連携促進	○
	各エリアにおけるエリア内及び他エリアへの案内機能	○
3 居住環境の改善	まちの将来像や在り方についての議論・検討	○

備考) 実施されている取組を○印、活動が停滞しているものや試行段階と言えるものを△印とした。

(2) 直江津地区プログラムの取組状況

① 地区別プログラム（直江津地区）の概要

第3期プログラムでは、「めぐる！楽しむ！直江津」を目標とし、商店街、市民団体はもとより事業者や住民の皆さんが、一体となって、地区内外からの来訪者の皆さんからまちの色々な場所を巡り、楽しんでいただくためのちょっとした改善や工夫に取り組むことにより、地域内での買い物、飲食、学び、交流などの楽しみを通して直江津のファンが増え、暮らしたいと感じる皆さんが増えていく状態を目指すこととした。

② 目標指標に対する現況

第3期プログラムで設定した目標指標及びその現況は、表Ⅲのとおり。

指標1の数値は、わずかに下回っており、また、指標2は目標値を大幅に超えている。指標2が大幅に目標値を超えているのは、令和2年にオープンした無印良品直江津やその周辺に立地するスーパー等の影響と推察される。指標3は、新型コロナウイルス感染症の影響もあって下回っている。

表Ⅲ 第3期プログラムの目標指標の現況：直江津地区

目標指標		数 値	現 況
1	直江津地区居住者の日常の買物割合 ※1	19.2%以上	18.8% ※4
2	直江津地区非居住者の買物割合 ※2	29.8%以上	46.1% ※4
3	主要な拠点施設の年間利用者数 ※3	954,000人以上	935,476人

※1 直江津区居住者が直江津駅前、中央、西本町、五智で週2、3回以上買物する割合の増加

※2 直江津区に居住していない市民が直江津駅前、中央、西本町、五智で買物する割合の増加

※3 主要な拠点施設は、直江津学びの交流館、ライオン像のある館、直江津ショッピングセンター

※4 令和6年度上越市消費動向調査による

③ 各種取組の現況

第3期プログラムでは、3つの基本方針を掲げるとともに、その基本方針の実施に有効と考えられる取組を「主な取組の例」として示した。

それらに現況の取組を当てはめてみると、濃淡はあるが、表Ⅳのとおり第3期プログラムに沿った取組が実施されている。

表Ⅳ 第3期プログラムの基本方針に沿った取組の状況：直江津地区

基本方針	取組項目	現況
1 拠点施設の来街者にまちなか回遊を促す仕掛けの充実	イベント開催やサービス提供を通じた回遊機会の創出	○
	拠点施設間の連携強化	○
	まちなか回遊促進に向けた商店街、商工団体、市民団体等の連携促進	○
	まちのイメージの共有と発信	○
	名店・名物・名所・旧跡等のPR	○
2 まちなかの受け入れ環境の整備	まちに来やすい、滞在しやすい環境の整備	○
	まちなかの目玉づくり	○
	まちなかにおける案内機能の充実	○
3 居住環境の改善に向けた検討	まちの将来像や在り方についての議論・検討	○

備考) 実施されている取組を○印とした。

2 中心市街地における取組状況に関するアンケート調査結果

令和7年2月に、商工団体や市民活動団体（高田地区 22 団体、直江津地区 16 団体）を対象に「中心市街地における取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和6年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。

(1) 令和6年度の取組

- ・プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 22 団体中 21 団体（95%）、直江津地区で 16 団体中 15 団体（94%）であり、大多数の団体が基本方針に基づいた取組を実施した。
- ・取組事例としては、高田地区では、商店街の共有施設の改修や休憩スペースの整備を行うとともに、季節に合わせたイベントを実施し誘客を図った。直江津地区では、「うみがたり周年祭」や「なおえつ鉄道まつり」といった地域の特性を生かしたイベント開催するなどして、にぎわい創出とまちなか回遊の促進に取り組んだ。高田地区、直江津地区ともにプレミアム付き商品券発行事業を行い、商店街での消費喚起を図った。
- ・高田地区、直江津地区の空き店舗解消に向けた取組として、商店街の物件情報を取りまとめ、Web サイトで公開した。また、空き店舗に出店した店主に行ったヒアリングの結果をまとめて Web サイトで公表した。
- ・こうした取組の一方で、「取り組んでいない」と回答した団体は両地区合計で 38 団体中 2 団体（5%）あり、その理由・課題として人材不足や資金不足を挙げている。

○参考：アンケート調査の回答から抜粋

団体名・取組主体	内 容
本町三丁目商店街振興組合 本町四丁目商店街振興組合 本町五丁目商店街振興組合	アーケードや駐車場といった共有施設の改修を行い、来訪者の利便性の向上を図った。フリースペースに大型遊具を設置した結果、子育て世代の利用が増えた。
本町 345 商店街連合会	プレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用した季節に合わせたイベントを行った。
雁木のまち再生	空き家の内見、相続や売却・賃貸に関する相談、活用方法の検討を行ったほか、手放したい人と活用したい人のマッチングを行った。
浄興寺大門通りまちづくり協議会（寺町2丁目町内会）	浄興寺大門通り石柱の文字鮮明化作業を行い、誰が見ても認識できるようになった。
直江津商店連合会	プレミアム付商品券発行事業、ダブルチャンス事業を実施した。
直江津まちづくり活性化協議会	「うみがたり周年祭」や「なおえつ鉄道まつり」を開催し、にぎわい創出やまちなか回遊の促進を図った。
直江津駅前商店街振興組合 直江津西部商工振興会	「互の市」及び「安国寺稲荷神社・府中八幡秋祭り協賛イベント」を開催し、活性化につなげるとともに、地域の交流の場としての役割を果たした。

(2) 今後取り組むことや検討していること

高田地区、直江津地区ともに他団体との連携や地域外の人、一般市民・学生を巻き込んだ取り組みのほか、若手役員の確保、後継世代の育成といった回答があった。

○参考：アンケート調査の回答から抜粋

団体名	内 容
本町四丁目商店街振興組合	イベント開催時に SNS を利用した取組を強化していきたい。
本町五丁目商店街振興組合	空き店舗を来街者の休憩所や起業を目指す人へのチャレンジショップとして活用できないか検討中。
NPO 法人高田髻女の文化を保存・発信する会	高田小町、大町五丁目通り、髻女ミュージアムを観光の発信拠点と位置づけて観光バスなどの訪問台数を増やしていく。高田城下町を全国の城下町にはない「祈りの城下町」を P R する事によって、寺町寺院群とともに観光の発信につなげ、住民の誇りを醸成する。
(株)三井企画あすとぴあ高田管理事務所、(株)イレブンビル	空き区画へのテナント誘致。
直江津西部商工振興会	周辺住民に向けて、商店街加盟店舗、事業所が講師となり、勉強会や相談会の実施。(花屋のフラワーアレンジ、飲食店の料理教室、不動産業の個別相談会など)。
東日本鉄道 OB 会直江津支部	直江津駅前の賑わいのため、空き家を利用して簡易な「鉄道資料館」が出来ないかと考えている。

(3) 中心市街地の活性化に向けた意見・提案

高齢化や人手不足等により中心市街地でのイベントや各種団体の活力低下を懸念するものや、防災面やハード面での取組や支援を求める回答があった。

○参考：アンケート調査の回答から抜粋

団体名	内 容
城下町高田花ロード実行委員会	高田本町商店街でたくさんのイベントを行っており、集客はあっても個々の商売の売上げにつながらず、だんだんと士気が下がっていると感じる。当日に商店街で楽しんでお買物をしていただけるよう努力をしなければと検討している。
(株)イレブンビル、お馬出しプロジェクト	今後数年間の間に高齢化による廃業や団体の活力低下が予想される。
雁木のまち再生	令和 6 年に本町通りで 3 件の火災が発生した。中規模の火災からの復興モデルや防災まちづくりの事例研究にならないか。
直江津西部商工振興会	古い町並みゆえに改修工事費がかさむ。ハード面の整備、改修工事に協力が欲しい。